

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2021年10月2日

デルタ株: ワクチン未接種者の死亡率は11倍: CDC

【松崎雑感】

デルタ変異株に対しても、mRNAワクチン(ファイザーあるいはモデルナ)接種者は、未接種者よりも感染による死亡率が10分の1以下に減るというデータが発表されています。モデルナの方がファイザーより効果が高いようだというデータもあります。

いずれにせよ、インフルエンザではワクチン接種により死亡率が2分の1程度に減るようですから、新型コロナワクチンの効果は、「すごい」と言えます。

デルタ株：ワクチン未接種者の死亡率は11倍：CDC

Dyer O. Covid-19: Unvaccinated face 11 times risk of death from delta variant, CDC data show. **BMJ**. 2021 Sep 16;374:n2282. doi: 10.1136/bmj.n2282. PMID: 34531181.

この夏までのサーベイランスによれば、アメリカで、一回もワクチンを受けていない人々は、2回接種完了者の11倍、デルタ変異株感染で死亡するとCDCが発表した。

13州の成人を対象とした追跡調査にから、**ワクチンを受けると、新型コロナによる入院リスクが10分の1に減り、感染者から感染を受けるリスクも5分の1に減るという結果が得られた。**

感染防止効果は、春の終わりまでにワクチン接種を完了した人々よりも低かったという。ワクチンの効果は6月20日頃にデルタ株が主流株となつてから低下した。

入院リスクと死亡リスクの低下率の減少度は小さかったが、感染リスクの低下率の減少度は大きかった。

4月4日～6月20日期に、ワクチン未接種者は2回接種完了者より16.6倍(13.5～20.4)死亡リスクが高かったが、6月20日～7月17日期には、死亡リスクが11.3倍(9.1～31.9)に低下した。

6月20日以前にワクチン未接種者の新型コロナ入院リスクは、ワクチン完了者の13倍だったが、その後10.4倍に低下した。

6月20日以前には、ワクチン未接種者の感染率はワクチン接種完了者の11.1倍だったが、その後4.6倍と低下した。

これらの数字はワクチン有効率の低下を示すものだ。すべてのワクチンを合算すると、死亡リスク低下率が94%から91%に、入院リスク低下率が92%から90%に、感染リスク低下率が91%から78%に下がった。

現在米国の新規感染の99%はデルタ株である。2回接種完了者は国民の54%、1回以上接種者は63%である。

このCDC調査は56万9142名の感染者、3万4972名の入院者、6,132名の死亡者を対象としている。接種ワクチンの92%はmRNAワクチンであり、それ以外はジョンソンエンドジョンソンワクチンである。

高齢者ほどワクチン効果が下がる

ワクチン効果は65才以上の年齢層で最も低下していた。接種から時間が経った人々で免疫が低下するためだろう。また高齢者ほど免疫レベルが低いことも明らかになった。

ERを受診してPCRを受けた3万2867名の調査では、75歳以下の人々では新型コロナによる入院リスクが89%低下していたが、それ以上の年齢層では76%の低下にとどまっていた。

すべての種類のワクチンを合算すると、入院リスク低下率は86%と高い。しかし、ワクチン種類によるばらつきが大きい。

入院リスク低下率はモデルナワクチンで92%だったが、ファイザービオンテックワクチンで77%、ジョンソンエンドジョンソンワクチンでは65%だった。

モデルナワクチンの入院リスク低下率が最大であることは、他の調査でも明らかにされている。

CDCはmRNAワクチンの効果に関する3件目の疫学調査を5つの退役軍人病院で行った。

その結果、デルタ株に置き換わった後も、入院リスク低下率はそれほど低下しなかったが、65歳以下の年齢層の95.1%に対して、65才以上の年齢層では79.8%とやはり低かった。

全年齢層の入院リスク低下率は、モデルナで91.6%、ファイザービオンテックワクチンで83.4%だった。

白人と黒人間に有効率の差は見られなかった。接種完了から90日以上経過した者と、それ以内の者の間にも有効率の差はなかった。

CDC代表のロシェル・ワレンスキー氏はホワイトハウスでの会見で「ワクチンの効果に関するさらなる証拠が明らかになった。調査すればするほど、ワクチンの有効性が証明された」と語った。